

ニッポンハム食の未来財団 2022年度第一期 団体活動支援助成 完了報告書

企画活動名	第7回ふくおか食物アレルギー攻略法講座（講演会）
フリガナ	シバタ ルミコ
申請者（代表者）氏名	柴田 瑠美子
団体名（正式名称）	団体名：特定非営利活動法人 福岡食物アレルギーネットワーク 申請者の役職・肩書など： 理事長

1. 活動結果要約

今回の講演会の目的は、食物アレルギー児を持つ保護者（特に新しく食物アレルギーと診断されたお子さんの保護者）や園/小学校関係者は、お互いの立場から新入園入学での集団生活に多くの不安を持っているため、食物アレルギー専門医師を講師として、まずは機序等の基礎知識を知ってもらい、事故の無いようにエピペン注射剤（アレルギー児が誤食等によりアナフィラキシーを起こした場合に症状の進行を一時的に緩和しショックを防ぐための注射剤）の打ち方/注意点を含み集団生活での注意点を解説し理解してもらうことである。

また、コロナ禍がまだ続いていた状態であったため、感染症流行時のアレルギー児の対応、さらに災害時の対応を解説することで、不安を解消し事前の準備をしていただくことができる状態にすること。

前回この講演会の動画を配信したが、遠方やコロナ影響で参加できなかった方が見ることができると評価をいただいております今回も実施した。これにより当日参加と同等の知識を習得してもらうことができた。

今講演会では、福岡地区小児科医会様、国立病院機構福岡病院アレルギーセンター様に後援にお願いいただき、今までより信頼感が増し、広く案内をすることができた。

2. 活動目的

食物アレルギーを持つお子さん、特に初めて食物アレルギーと診断されたお子さんの保護者は、何をどう考えて子育てしたらよいか不安に思っており、誰に相談したらよいかわからない状態である。インターネットで検索すると間違った情報もあり、事故につながることもある。そこで、食物アレルギーの正しい知識を専門医を講師として基礎から学んでいただき、まずは日常生活において安心して子育てができるようにしてもらおう。

また、食物アレルギー児が新しく集団生活を始めるにあたっての注意点、感染症流行時や災害時の対処方法を保護者、園/学校関係者ともに理解してもらおう。

エピペンについて、保護者側は処方時に使い方の説明は受けているが、使う機会がないと忘れてしまう。使う場面の想定および実機を使用して使い方をマスターしておくことで、万が一の時にスムーズに使用できるようにしておく。

園/学校関係者は、昨今の新型コロナ禍によりエピペン実地講習ができておらず、特に新着任の教員はまったくエピペンに触ったことがないため、講習が急務であり、万が一の時にスムーズに対処できるようにしておく。

アレルギー対応食の表示について、表示義務があるお店ないお店等の情報や、商品の裏面のアレルギー物質表記のまぎらわしい名称、外食時の確認の仕方等を知っておくことで、誤食事故を減らすことができるため、知識として習得してもらおう。

3. 活動方法

【計画通りに実施できた内容】

- ・実施日：2022年11月27日(日) ➡計画通り
- ・会場：あいれふ10階講堂 福岡市中央区舞鶴 ➡計画通り
- ・参加者：71名 患者およびその家族、園/学校関係者（保育士、教諭、栄養士、調理師）
➡計画通り
- ・講座内容 ➡計画通り
 - 1、アレルギー基礎講座 30分

講師：柴田瑠美子

2、新入園、新入学に備えて（生活上注意すべき点） 30分

講師：後藤綾子

3、感染症の流行時における対応 30分

講師：松崎寛司

4、災害時における対応 30分

講師：手塚純一郎

5、エピペンの使い方/アレルギー対応食の表示の見方 30分

講師：増本夏子、岡松由記

6、質疑応答 15分

*その他

①講演会場にアレルギー対応食/災害時非常食を展示し紹介と配布済み

②動画で撮影し配信済み

【当初の計画と比較して計画通りに実施できなかったこと】

計画通りに実施できたため、実施できなかったことはありません。

【計画から外れて実施したこと】

計画した事項のみ実施したため外れて実施したことはありません。

4. 結果及び波及効果

【活動の結果】

- ・講演内容について終了後のアンケートから、保護者からは、「アレルギーの正しい基礎知識が
取得できてよかった。新入学を控えているので、学校への申し入れや注意点がわかってよかつ
た」との評価を得た。
- ・園/学校関係者からは、新着任の関係者を中心とした参加が多く、「正しい知識が取得できた、
お子さんを預かる上での集団生活での注意点がわかってよかった」との評価を得た。

- ・コロナがまだ収束していない時期であったため、アレルギーをお持ちのお子さんの感染対策（特にアレルギーを持っているお子さんはコロナに罹りにくい報告）で安心できたこと、災害時の対策で準備をしなければいけないことが理解できたとの評価を得た。
- ・エピペンについて、なかなか打つ機会がないので不安であったが、実際に注射器を使うことができたので、体で覚えることができたとの評価。特に参加されたお子さんが実際にデモ器で打つ経験ができたとの評価を得た。
- ・アレルギー対応商品および災害時の対応商品の展示により、対応商品がこんなに豊富にあることを知らなかったかたが、アンケート記入の方の80%いらっしやって、うまく付き合って子育てをしていく上で参考になる、また保育園での給食やおやつ幅が広がったので良かったとの評価を得た。
- ・動画配信により遠方にお住まいや当日体調不良で参加できなかった方が動画を視聴され、正しい最新の情報が見られてよかったとの評価をいただいた。

【活動の波及効果など】

1、活動終了時の成果（保護者）

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（食物アレルギーの基礎知識～最新情報）になってもらった。
- ・園/学校の集団生活で、事故を防ぐためにやっておくことを理解いただき、万が一の時にエピペンをすぐに使える状態および前後にやらなくてはならないことがわかった状態になってもらった。

2、活動終了時の成果（園/小学校関係者）

- ・食物アレルギーの正しい知識を身につけた状態（食物アレルギーの基礎知識～最新情報）になってもらった。

- ・事故を防ぐために園関係者が、保護者と何の情報をすり合わせるべきかがわかった状態になってもらった。
- ・エピペンの保管場所/方法およびどういう場面でエピペンを使うべきかとそのあとの対処がわかった状態。

3、波及効果

- ・当該講演の動画を当日参加できなかった方及び当団体会員へ配信し、正確な最新のアレルギー情報を提供することができた。
- ・講演最後にQ&Aをおこなったが、保護者からの悩み、園/学校関係者からの悩みを共有できたため、同じ不安や疑問を持った方々に対しその解消ができたこと、およびこれから同じ事象にあった場合に対処できるように情報共有ができた。
- ・この講演会もおかげさまで7回目を迎え、園/学校の一部では、新人職員のアレルギー研修の場との位置づけで参加いただいている。

5. 今後の活動について

【今後必要なこと】

- ・毎年、新たに食物アレルギーと診断されるお子さんは増えており、日常生活や災害時対応、感染症対応に不安や疑問をかかえている保護者も多く、さらにネットの情報氾濫により、不確かな情報を見て間違った対応をする方も多くいるため、専門医による正確な知識の啓発は継続する必要があると考える。
- ・治療方法について、新しく海外で導入されている実績や未承認ながら将来的に導入されそうな方法等の情報も提供することでアレルギー治療も進化していることで期待感をもっていただく。
- ・今回、福岡地区小児科医会様、国立病院機構福岡病院アレルギーセンター様に後援についていただき、今までより信頼感が増し、広く案内をすることができたため、今後の講演会等企画でも後援をお願いする。

【考えられる波及効果】

- ・アレルギーに関する正確な情報が伝われば、エビデンスに基づいたガイドラインに沿った検査～治療に参加することで、早い寛解が望め不安なく子育てをおこなってもらえる。
- ・当ネットワークは専門医師とアレルギー児の子育て経験者で構成されているため、相談等の回答をすることで、不安や疑問を解消し子育ての応援ができる。

【終了後の活動計画】

- ・ホームページにより、いつでも相談を受付けている旨発信することおよび情報を配信すること。
- ・講演会/相談会等情報発信の場の企画を継続して行うこと。

以上